

バレーボール競技におけるオノマトペの有効性

関 辰彦 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：オノマトペ パフォーマンスの向上

1. はじめに

本研究では、バレーボール競技中のプレーに伴って発せられる声をオノマトペと定義した。オノマトペが、パフォーマンス向上のために有効であるかを明らかにする。実践場面で、どのようなとき、どういったオノマトペを発すべきか実験検証を行い、現場のコーチングにつなげることを本研究の目的としている。

2. 研究方法

スポーツオノマトペに関する文献調査。また、競技内パフォーマンスの以下4動作を抽出し、実験検証を行った。動作は「スパイク」「サーブ (フローターサーブ、ジャンプサーブ)」「トス」「2 ボールゲーム」とした。オノマトペ発声時・無発声時でパフォーマンス変化を比較した。被験者は、本学の男子バレーボール部員。

「スパイク」と「サーブ」は、オノマトペ発声時・無発声時を表1に示したように3分類し、ボールスピードの変化を比較した。

「トス」は、表2に示したようにオノマトペ発声のタイミングによる正確性を調べた。

「2 ボールゲーム」は、ネットを挟み6人ずつのチームをつくり、オノマトペ発声時・無発声時のミス率を計測した。

表1 スパイク・サーブ実験発声パターン

項目数	パターン
①	大きな声を発声し、ボールを打つ(オリヤーなど)
②	小さな声を発声し、ボールを打つ(ソツ、ウツなど)
③	発声せずに、ボールを打つ

表2 トス実験発声パターン

項目数	パターン
①	トスを上げる前に「レフト」と発声し、トスを上げる
②	トスを上げると同時に「レフト」と発声し、トスを上げる
③	トスを上げた後に「レフト」と発声する

3. 結果と考察

4動作で、発声時・無発声時のパフォーマンスに大きな変化が見られたのは、「スパイク」、「ジャンプサーブ」、「2 ボールゲーム」であった。「スパイク (図1)」、「ジャンプサーブ」は発声によりボールスピードの上昇がある。発声パターン①と②は個人差があった。

「2 ボールゲーム」は、無発声時にお見合いによる失点数が増加する。プレーの際は、ボールタッチの前に意思表示のオノマトペを発声することが、競技者間の意思疎通や確認のためオノマトペは重要な役割を果たす。

「トス」と「フローターサーブ」は、オノマ

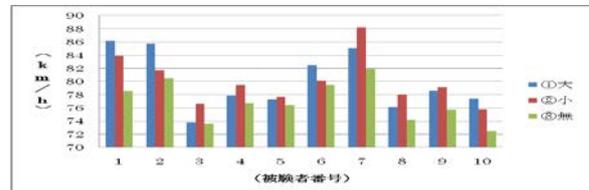


図1 スパイクスピードの変化

トペ発声の影響が本検証では認められなかった。

4. まとめ

オノマトペは競技動作によって、パフォーマンス向上につながる。

したがって、パフォーマンス向上につながる動作の際は、オノマトペの積極的活用が望まれる。

引用・参考文献

藤野良孝 (2008) 『スポーツオノマトペ なぜ一流選手は「声」を出すのか』小学館